

竹内比呂也(千葉大学)

図書館活動全体から見たIR

機関リポジトリは何のために構築されるのか

<オープンアクセスの促進>

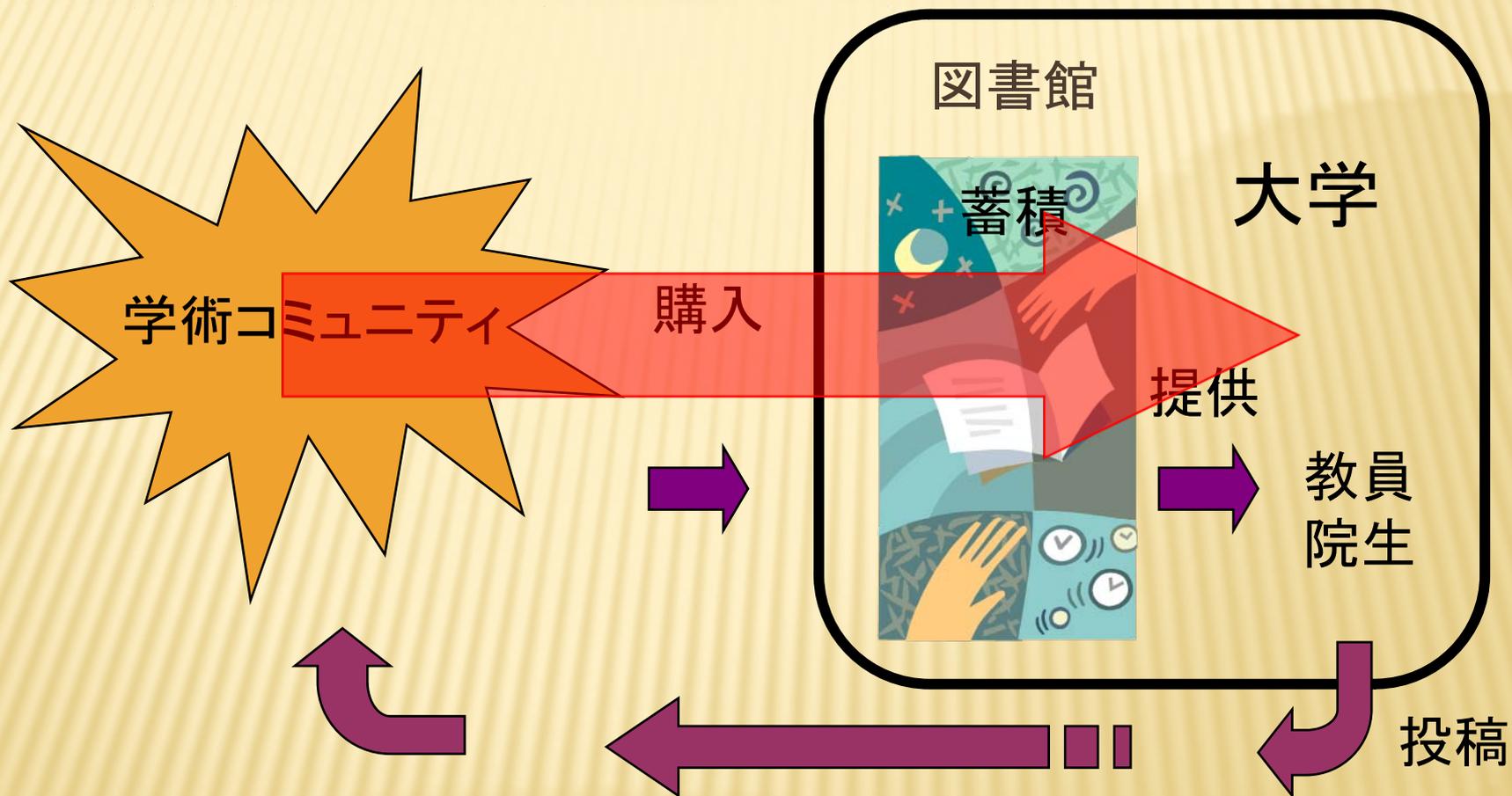
- ✦ 研究へのアクセスの拡大し、学問のコントロールを学術社会の手に取り戻し、機関や図書館の関与度を高めることにより、学術コミュニケーション・システムを改革する(SPARC)

機関リポジトリは何のために構築されるのか

＜大学のアカウントビリティの向上＞

- ✦ 目に見える大学の指標として役立たせ、研究活動の科学的、社会的、経済的な妥当性を実証し、それによって大学の認知度、地位、社会的価値を高める(SPARC)

大学図書館の伝統的モデル： 「学外から大学への情報入手の窓口」



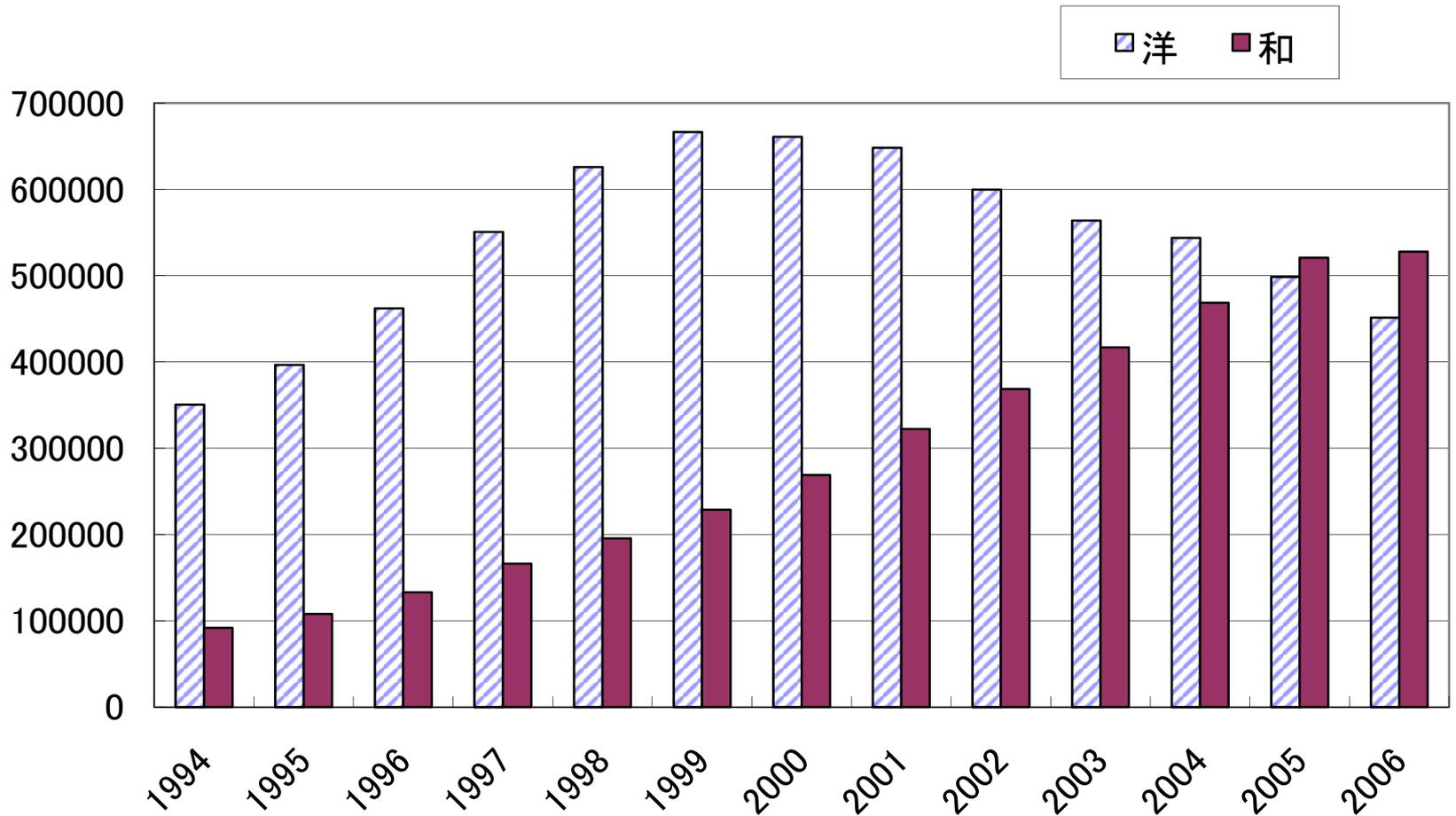
「機関リポジトリ」モデル 「大学から学外への情報発信の窓口」



大学図書館活動に対するインパクトは？

- ✕ 機関リポジトリは大学図書館サービスの諸側面に影響を与えるものである。
 - + 機関リポジトリと文献提供
 - + 機関リポジトリと書誌コントロール

CASE1:機関リポジトリはILLを変革する



CASE1:機関リポジトリはILLを変革する

「機関リポジトリ等で入手可能」として謝絶した件数
(2007年4月から2008年1月)

CURATORにあり	それ以外のオープンアクセス情報源にあり	合計
47	44	91

ILLを希望した学内者に対してオープンアクセス論文を紹介した件数
(2007年4月から2008年1月)

機関リポジトリにあり	それ以外のオープンアクセス情報源にあり	合計
7	35	42

CASE1:機関リポジトリはILLを変革する

「CURATORにある」という理由で謝絶：
161件(6月以降)



千葉大学附属図書館亥鼻分館での調査による

CASE2:機関リポジトリは学生へのサービスも 変革する

× パスファインダーと機関リポジトリ

- + 「授業資料ナビゲータ」(パスファインダー)掲載文献が機関リポジトリに含まれる。

× ポッドキャストと機関リポジトリ

- + ポッドキャストで紹介した教員の業績が機関リポジトリに含まれる。

CASE2:機関リポジトリは学生へのサービスも 変革する

- ・高橋信良 「鏡の中の鏡：安部公房の演劇論Ⅱ」『言語文化論叢』Vol.5 p.A43-A74 1999
【本館雑誌閲覧室 04号】 【論文電子版】
- ・高橋信良 「劇中劇：安部公房の演劇論Ⅲ」『言語文化論叢』Vol.11 p.A1 A14 2002
【本館雑誌閲覧室 04号】 【論文電子版】

参考図書(辞書・事典等) 初めてのテーマは、百科事典や事典別の事典などでおおまかの内容をつまみましょ。

- ・『演劇百科大事典』第1巻-第6巻 早稲田大学演劇博物館編 平凡社 1960-1962
→ 日本演劇を中心に、内外古今の演劇について14,000項目を収録し解説しています。 【本館参考室 /103/h-NG】
- ・『西洋演劇用語辞典』テリー・ホジソン著 鈴木隆一 [ほか] 訳 研究社出版 1996
→ 学生や一般読者を対象に、古代ギリシアから現代まで演劇の現場で使用する用語を解説した辞典です。 【本館参考室 /10033/Sht】

****「本館参考」にあるものは図記館内で利用して下さい。****

戯曲を読んでみよう

- ・『オイティプス王』(岩波文庫) ソポクレス著 藤沢令夫訳 岩波書店 1967
★【本館閲覧室4階小室 991/SOP】
 - ・『三文オペラ』(岩波文庫) プレヒト作 岩淵達治訳 岩波書店 2008
★【本館閲覧室4階小室 942.7/SAN】
 - ・『安部公房戯曲全集』新潮社 1970
★【本館閲覧室4階 912.6/A12】
 - ・『女中たちノバルコニー』(ジャン・ジヨネ全集 第4巻) ジヨネ著 新潮社 1967.
★【本館閲覧室4階 958/G328】
 - ・『ゴドーを待ちながら』(ベケット戯曲全集 1) ベケット著 白水社 1986, 1967
★【本館閲覧室4階 952/B396】
 - ・『あわれ彼女を娼婦に心破れて』(エリザベス朝演劇集) フォード著 白水社 1995.
『あわれ彼女は娼婦』(世界文学大系89: 古典劇集2) フォード著 筑摩書房 1963
★【本館閲覧室4階 937/F899】(白水社版)。★【本館閲覧室4階 908/SF22】(筑摩書房版)
 - ・『コルテス戯曲選』コルテス著 れんが書房新社 2001
★【本館閲覧室4階 952.1/KOL】
 - ・『ピランデロ戯曲集Ⅰ,Ⅱ』ピランデロ著 新水社 2000
★【本館閲覧室4階 972/PIR】
- ***★のついている図書は、授業期間中(4月～8月)は本館1階 授業資料ナビゲーターにあります。***

日本の演出家が語る演劇

- ・『演劇入門』(岩波新書) 千田是也著 岩波書店 1966
→ 芝居小劇場に参加し、後座席代筆となった千田是也が演劇の手引書として書いた本。 【本館閲覧室4階小室 /1】
- ・『演劇ってなんだろう』井上ひさし編 筑摩書房 1997
→ 井上ひさしを中心に演劇関係者たちが語り合う洋装劇形式の演劇論。 【本館閲覧室4階 /12.1/h-NS】
- ・『演出論』蜷川幸雄、長谷部浩著 紀伊國屋書店 2002
→ 蜷川幸雄の無名の原典や演出の技法について、主な演出作品を網羅しながらインタビュー形式でまとめている。 【本館閲覧室4階 /12.1/h-NS】
- ・『演技と演出』(講談社現代新書) 平田オリザ著 講談社 2004
→ 優秀な俳優の条件、演出家はなぜ必要なのかなど、芝居づくりの基本がわかる入門書。 【本館閲覧室4階小室 /11.1/h-NG】
- ・『河童が語る舞台おもて』妹尾河童著 平凡社 1987
→ 舞台美術家の妹尾河童が、舞台製作の裏話やタネを明かしてくれています。 【本館閲覧室4階 /11.5/St/12】

授業資料ナビゲータ(PathFinder)入り口 (<http://www.ll.chiba-u.ac.jp/pathfinder/>)
作成: 千葉大学附属図書館 2008.4.1 (修正: 2008.5.20)

一 原風景——「墓の中の誕生」

終った所から始めた旅に、終りはない。墓の中の誕生のことを語らねばならぬ。何故に人間はかく在らねばならぬのか？

これは「終りし連の標へ」の冒頭部分である。安部公房がこの存在論的な問いから出発したことは、多くの批評家たちによって注目され続けてきた。作者自身もこの作品を「出発点」と認めているのだが、彼の創作活動の第一歩として、また彼の作品全体を特徴づけるものとして、分析されることもうなずける。たしかに、この形而上学的な問いにはわれわれを引きつける一種独特な魅力がある。しかし、魅惑的な問いというものは、往々にして安直な誤解と結びつきやすいものである。例えば、この問いを虚無主義的な精神像と結びつけたり、詩的幻想を膨らました果ての「絶望よりの醜り」などと結論づけられ、安部公房は二つの時代に固着し、あとはノスタルジックに語られることしかなくなってしまうだろう。つまり、

この小説の目的は、様々な表現を単なる比喩として短絡的に解釈することをさげ、作者の言葉のおもむきを受けることにある。そうすることによって、逆説的ではあるが、郷愁としてはない安部作品の時代的な位置づけも可能となるであろう。

「人間はかく在らねばならぬのか？」と問うとき、作者は、すでに「人間はかく在るのか？」という実在的な疑問を超越した次元に位置する。そして同作品の主人公が、「水い逃走……目的のような手段、手段のような目的……正直いって、私にはもう、物事の終りという観念がなくなってしまうつららしいのだ」と嘆くとき、「墓」は人生という限界点を持った終局的な意味での死を意味しなくなり、「墓生」の中の誕生とも死・絶望からの醜りとして機能することをやめる。そのうえ、原因・目的の二項関係が不鮮明になることで、この主人公は二元論を超越したかみえ。しかし、ここで重要なのは、主人公が何かを超越したか否かという結果ではなく、二元論の世界から顔をそらさず、その狭間でもがき苦しんだという事実である。その点において、「人間はかく在らねばならぬのか？」という言葉が究

CASE2:機関リポジトリは学生へのサービスも変革する

ポッドキャスト@千葉大図書館
http://llbcast-chibau.seesaa.net/

● 第1回 保坂高殿先生 著書語る 「千葉大学の研究を語る」

「千葉大学の研究を語る」の第1回は、文学部教授 保坂高殿（ほさかたかや）先生です。

● 最近のコメント

● 最近の記事

(05/16)千葉大学の研究を語る
(05/16)第1回 保坂高殿先生 著書語る 「千葉大学の研究を語る」
(04/25)Introduction to the Central Library (Korean)
(04/25)K4: Information of the Library (kor)
(04/25)K3: Library Facilities (kor)

● 検索

検索

ウェブ 記事

● RSSプレイヤー

ALL VIDEO AUDIO

DISPLAY

先了

研究ノート

Nomen ipsum

保坂高殿

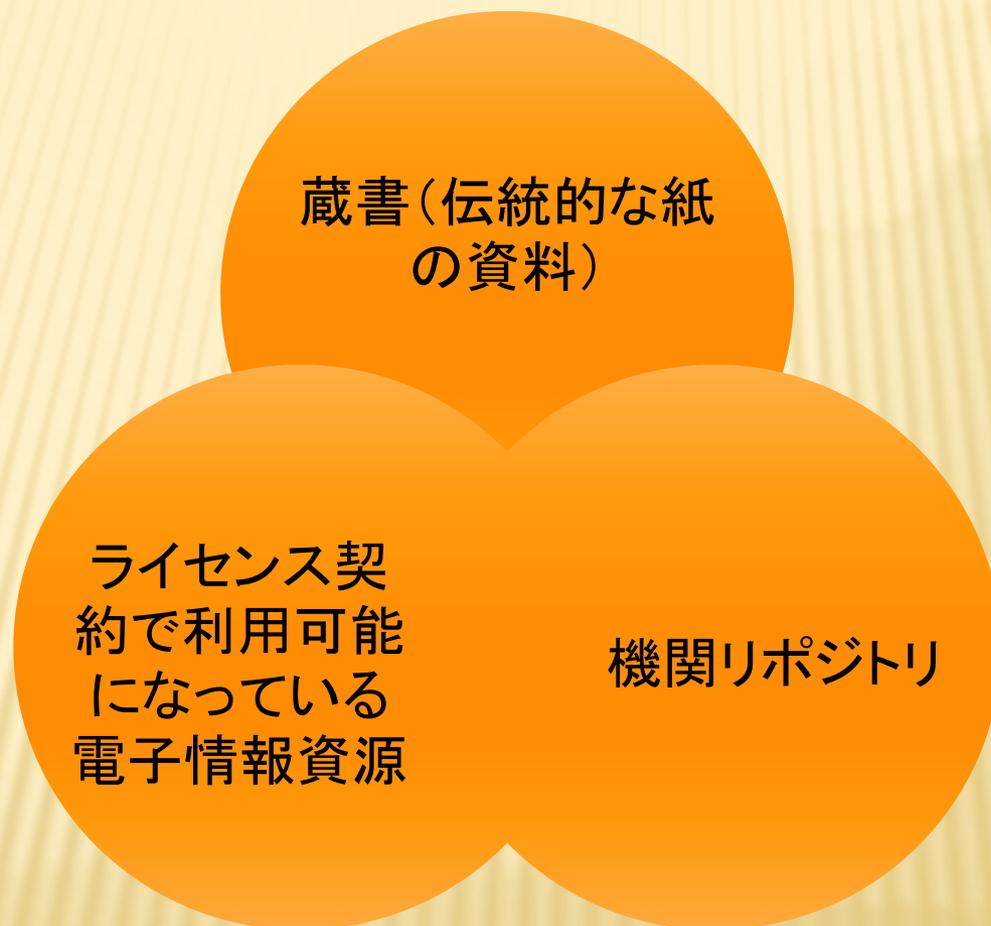
2005年11月20日、日本西洋史研究学会主催により執筆「ローマ帝政初期のユダヤ・キリスト教追書」(教文館、2003年)を机上に乗せてのシンポジウムが東京の青山学院大学で開催された。論点提示者三名に割り当てられた時間は計二時間、その後の質疑応答に三時間であったが、著作が扱った題材が多岐に渡っていたためこの程度の時間でも議論を交わせば一日では終わらないとの予想のもと、小プリニウスの『キリスト教書簡』(2005年)第二期に現れるnomen ipsum以下の文言に関する記事については議論が十分に及ばず、詳細な議論は単独から遅れることにした。筆者は著作で扱った一、二世紀だけでなく、紀元外の三、四世紀にも強い関心を持っているため、議論の焦点を同時に後者の方にも当てて議論してもらえば、この時期の歴史研究分野では新物の領域に入る著者の方が異なるところが多いと考えたからである。幸いシンポジウムは予定の時間内に終了し、しかも古代教会の初期に関して市政後期の専門家の意見を聞くことができ(これはオトリック教会を、およそ並る資料とは無縁のものとする性質的かつ懐疑的、しかも少なくとも真実の一端には確実に触れている個性溢れる卓見であった)、さらには制度的ながらもこの点に関する意見もおおよそそのところ開陳することができ、大会主催者の多大な努力が実った事となったことは喜ばしいことであった。

しかし執筆が展開する議論の出発点を構成する nomen ipsum に関する解釈についてはやはりある程度詳細な議論を展開すべきであったかも知れないとの思いが残った。国史記ローマ帝国政府がキリスト教への接近を試み、事実に近し得た原因を調べるにはやはり先行する時代における帝國政府の基本原則を丁寧に検討しておく必要があり、そのために文献史料が豊富である限りでの史上物の総論法廷におけるキリスト教徒関係事実を正確に把握し、この点に関する意見を前もって整理しておく必要がある。「キリスト教書簡」第二

IRはもはや大学図書館サービスの基盤である

- ✕ 機関リポジトリは、文献提供という大学図書館にとって最も基本的なサービスを改善する
- ✕ 機関リポジトリは、大学図書館と教員との間により関係を構築し、すぐれたサービス実現のための基盤となる
- ✕ 機関リポジトリは、もはや大学図書館にとってはなくてはならない基盤の一つである

大学図書館サービスの基盤としての機関リポジトリ



しかしまだ改善の余地はある

- ✖ 学内サイトに散らばっている資源の集約化
- ✖ 書誌コントロールの問題
 - + ユニークなコンテンツについての唯一無二なメタデータ作成と提供：発見可能性の保証
 - + 出版社版／データとの関係の明示：FRBRのような著作の関係性を表現できるような仕組みが必要か？
- ✖ 保存についてどのように考えるか

SPECIAL THANKS TO

- ✖ 「電子情報環境下において大学の教育研究を革新する大学図書館機能の研究」(REFORM2) (平成19～21年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究代表者:土屋俊千葉大学教授)
- ✖ 鈴木宏子, 鶴岡真知子. ILLサービスにおける機関りポジトリとオープンアクセスのインパクト:千葉大学の経験から. 専門図書館. No. 228, p. 1-6 (2008)
- ✖ 千葉大学附属図書館亥鼻分館のみなさん